

講義コード	11C0111501	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	林 康史	開講期	第2期
科目名	金融論2A					林 康史		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	金融市場の現場で「何が起きているか」を念頭に置きつつ、基礎からデリバティブまでを講義する。マーケット感覚を養うために外国為替の模擬取引等、受講者参加の方法も取り込む。金融は経済の基礎をなしており、経済の理解には必要である。金融の知識が不足していれば、一流のビジネスパーソンにならないばかりか、個人生活にも支障をきたす。国際金融論、証券論、中国金融、金融知力論、PF概論、保険論、商品市場論、等の関連科目の基本となる。								
到達目標	金融システム・市場、金融機関、デリバティブも含む金融商品を理解し、概略を説明できる。また、行動経済学の知見も理解し、マーケット感覚も身につけ、リスクを検討できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修時間数は、60時間以上。授業外学修は資料の予習以外は、主として復習に充当されたい。復習以外に、参考文献等を読了すること。それらの要約や感想文を提出してもらうこともある（詳細は講義中に指示する）。								
授業計画	<p>マクロ経済と金融</p> <p>【第1回】金融政策の考え方</p> <p>【第2回】金融政策と中間目標 金融政策の歴史的展開</p> <p>【第3回】戦後から高度成長期を経て安定成長期まで</p> <p>【第4回】日本版金融ビッグバンと金融政策</p> <p>【第5回】量的緩和政策、異次元緩和 金融規制</p> <p>【第6回】制度と規制</p> <p>【第7回】規制の区分と種類、自己資本比率規制</p> <p>【第8回】事後的規制、消費者・投資者保護 金融市場</p> <p>【第9回】金融市場の分類 金融デリバティブと証券化</p> <p>【第10回】証拠金取引、レバレッジ</p> <p>【第11回】金利スワップ、通貨スワップ</p> <p>【第12回】オプション</p> <p>【第13回】証券化 金融リテラシー</p> <p>【第14回】マーケットの心理学</p> <p>【第15回】マーケット予測と投資運用</p> <p>*上記の15回を予定しているが、ほかに以下のテーマ等も取り上げたいと考えている。 「運用スタイル」、「ポートフォリオ構築の視点」、「リスクとリスク対応」、「運用ルール」等々。</p>								
成績評価の方法	期末試験に、レポート、授業への取り組み姿勢等を加え、総合的に評価（予定）。小テストを行う場合もある。								
フィードバックの内容									
教科書	『やりなおしの金融論』（近刊予定）林康史								
指定図書	『貨幣と通貨の法文化』林康史編（国際書院）2016年、『通貨政策の経済学』クルーグマン著、林康史・河野龍太郎 訳（東洋経済新報社）1998年、『法と経済学』矢野誠 編（東京大学出版会）2007年、『欲望と幻想のドル』クレイグ・カーミン著、林康史 監訳（日本経済新聞出版社）2010年、『トレーダーの発想術——マーケットで勝ち残るための70の箴言』ロイ・W・ロングストリート著、林康史 訳（日経 BP 社）2014年、『マネーの進化史（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）』ニール・ファーガソン（早川書房）2015年								
参考書	『マンガーの投資術 バークシャー・ハザウェイ副会長 チャーリー・マンガーの珠玉の言葉』デビッド・クラーク著、監訳（日経 BP 社）2017年、『改訂版 金持ち父さんの投資ガイド 入門編』キヨサキ他著（筑摩書房）2014年、『「儲かる人」への59の質問 マネーの心理』（文庫版、知的生きかた文庫）』マネー & ライフ研究会著、林康史（編集）（三笠書房）2006年、『13歳からの投資のすすめ』ティモシー オールセン著、浜田陽二・宮川修子・林康史 訳（東洋経済新報社）2006年、『改定版 基礎から学ぶ デイトレード——マーケットを理解するための思考術』林康史（日経 BP 社）2013年、『戦略的リスク管理入門』ジェームズ・ラム 著、林康史・茶野 努 監訳（勁草書房）2016年								
教員からのお知らせ	“金融” “証券・証券化” “デリバティブズ” の知識が、なぜ、必要なのか、自覚して履修のこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
その他									